

# 不燃物の正しい分別方法を再確認しよう



シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」④

不燃物の収集は、缶・金属類の日とびん・ガラス類の日を月2回です。不燃物は収集後、それぞれの性質に合わせて品目ごとにリサイクルされます。今回は、そんな不燃物の分別ポイントをおさらいします。

【問】市生活環境課リサイクル推進係 (☎ 88・8933)



## 缶・金属類は右の表を参考に分別を

飲料用の缶類はその大部分がリサイクル可能な貴重な資源です。収集された缶は、工場では磁石付きの機械によってアルミ缶とスチール缶に分別されます。そのため、アルミ缶とスチール缶を分ける必要はありません。その他の金属は、品目によって出し方が異なります。また、電子レンジや掃除機などの家電は、不燃粗大ごみとして出してください。詳しくは、ごみ分別アプリで確認するか、市生活環境課へ問い合わせてください。



工場での缶の分別過程



## 分別する金属ごとの注意点

	品目	注意点
(飲料用) 缶類	ジュース缶 ビール缶	アルミやスチールマークが付いているものは中身を洗って缶類に分別する
	スプレー缶	空にして、穴をあけてから「その他の金属」に出す
その他の金属	包丁 カッターナイフ ナイフ	新聞紙などに包み、中身を明記した袋に入れて「その他の金属」に出す
	お菓子缶 缶詰缶 食用油缶など	中身を洗って「その他の金属」に分別する
不燃粗大ごみ	電子レンジ 掃除機 自転車など	出せるのは、家電やチャイルドシート、ベビーカーなど1人で運べるものだけ
その他	塗料缶 ドラム缶	金属としては出さず、販売店や専門業者に相談する

## びん・ガラス類の分別の再度確認を

4月からびんとガラスは、白色(透明)、茶色、その他の色の3種類に分けて収集しています。

### ●びんの分別と主な品目

- ▷白色(透明) = 牛乳びん、ジャムのびんなど
- ▷茶色 = ビールびん、栄養ドリンクのびんなど
- ▷その他の色 = ワインのびん、酒びんなど

## 3月の可燃ごみの量

柳川市 1194トン	みやま市 417トン
---------------	---------------

3月の市内の可燃ごみの量は1194トン(前年同月1568トン)でした。前年同月と比べて23%削減。可燃ごみの割合は、柳川市74%:みやま市26%でした。3月から有明ひまわりセンターの建設費負担割合を決める可燃ごみの測量が始まっています。引き続きごみの分別にご協力をお願いします。

## よくあるお問い合わせ

- Q** 缶を出すときは、つぶさないと回収されないのですか？
- A** つぶしてもつぶさなくても回収されます。中をきれいに洗い、水気を切って出してください。
- Q** びんに付いているラベルは剥がす必要がありますか？
- A** びんのラベルは、剥がす必要ありません。びんは、ふただけを外して出してください。

# 柳川とおき歴史の話 - 立花宗茂外伝 - 第9回

【問】市観光課観光推進係 (☎ 77・8563)



## 武勇と算術の達人 小野和泉

関ヶ原ののち、改易となった立花家にとって、わずかな救いは家臣たちが路頭に迷うことがなかった、という点でしょう。不敗の立花宗茂の家臣を召し抱えたい、という諸大名が引き抜きの列を成しました。筆頭家老の小野和泉(鎮幸)は、客将として、250余石をもって熊本藩加藤家へ仕えました。

彼は天正16(1588)年6月、宗茂が柳河に入城したおりには、蒲池城(現・柳川市)の城番家老となり、5千石を給せられ、宗茂より、「そなたを今後、父とも思う」と頼りにされました。

和泉は智勇を併せ持った武将で、常に先陣をつとめ、一説に参加した大戦は22。22歳から55歳までの傷は全部で67カ所。大友・立花両家から受けた感状は、68通に及びます。

文禄の役のおりには、太閤秀吉が和泉を大坂城に招いて、

「日本七槍の二」と推賞しました。ところが和泉は、戦の中で育ったため、字が書けなかったといひます。熊本藩へ招かれたおり、60歳になりますが、まだよく字を覚えていませんでした。

「朝鮮出兵のおりに毛利輝元公の信書が読めず、返事が書けず、深く恥じて、日本へ戻ってから字を妻に習い、今日にいたっております」

と清正に語ったそうです。そうかと思うと、ある時、清正と和泉が将棋を差しているとき、隣の部屋で近習が喧嘩を始め、抜刀する事態となりました。将棋で敗色の濃かった清正は、途中で投げ出して立ち上がるうとしたのですが、和泉は、「殿、見苦しい真似をなさいますな。ここへ押し掛けて来るものあらば、不肖この老人が取り押さえます。殿は落ち着いて下さりませ」

と言ひ、清正を赤面させたといひます。清正40歳、和泉60歳のときでした。

和泉は関ヶ原の戦いののち、居城の蒲池城で戦傷を治療していたのですが、熊本では柳河衆百人の頭となりました。

宗茂主従は京、江戸へと旅立ちました。資金の不足を補ったのも和泉でした。

とくに相模小田原(現・神奈川県小田原市)に到着した一行は、資金が底つき、これ以上進



蒲池城跡碑

めなくなりしました。その時です。銀子20貫(現在の価値にして300万円)を和泉が送ってきました。これまでの戦場で使用した、残りの銀を集めたのだといひます。

彼は晩年、出家して宗珊と名乗りましたが、熊本の地で65年の生涯を閉じました。法名は華徳院宗珊大居士、熊本の本妙寺近くの東光院に葬られました。

## ■文Ⅱ 加来耕三

(つづく)